

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2025年10月31日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第50号

「心豊かに住み続けられるまち」とは？

ネットワークサロンがある東九条東北部は、隣接する崇仁学区に影響されながら今日までできています。1960年代からは人口過密による衛生問題・大火災の多発、不安定な経済状態から高校進学率の低迷など様々な課題がおこってきました。しかし、同和事業が優先されたため、東九条東北部では抜本的な対策がおこなわれることはありませんでした。

「京都市同和行政終結後の行政の在り方総点検委員会」（2002年4月開始）で、京都市の同和行政の今後の在り方が議論されました。委員会の「報告書」（2003年3月）で、崇仁学区の余剰地について「京都駅に近接した立地を生かし、未来の京都を見据えたまちとなるような活用を検討すべき」とし、京都市立芸大等が移転する契機になりました。東九条東北部では、「京都駅東南部エリア活性化方針」（2017年3月）で、「新しい流れ（京都市立芸大移転）をいかした『文化芸術によるまちづくり』という新しい視点を取り入れることにより、新たな人の流れの創出が期待され」とされ、チームラボが「新たな価値を生み出す創造・発信拠点」として誘致されたのです。



上段：2011年7月撮影、下段：現在の状況、チームラボ・ワ
ンクルームマンションが建ち、須原通り・高瀬川が整備された。

「京都駅東南部エリア活性化方針」では、「高齢者や子ども、障がいのある人、国籍や文化的背景の異なる人など、様々な人が互いの多様性を認め合い、心豊かに住み続けられるまち」になることも将来像として掲げています。東九条東北部は、今まさに「新たな人の流れの創出が期待され」るまちになろうとしています。しかし、「心豊かに住み続けられるまち」になるかは疑問です。

前川 修（京都市地域・多文化交流ネットワークサロン）

一般社団法人HAPS、京都市地域・多文化交流ネットワークサロン共催企画（7月12日）

一般社団法人 HAPSが昨年度より行っている「藝術・文化や共生にかかわる生態系をひらくトークシリーズ」の第三回お話し会は、ネットワークサロンも企画に参加させていただきました。そして、ネットワークサロンの登録団体でもある「やさしい日本語」を広める会の宮島みどりさんに「やさしい日本語」についてのレクチャーをしていただいた後、学びを活かしてグループ形式のワークショップを行いました。

テーマは「やさしい日本語」の「やさしさ」とは？参加者の山口恵子さんがその答えにつながるような素敵な感想を書いてくださったのでご紹介します。

私は東九条のコミュニティカフェ「ほっこり」でスタッフをしながら、お芝居も作っています。地域の人にインタビューをしたり、ワークショップをしたりしています。公演やワークショップのお知らせを書くことが多いのですが、日本語が母語でない人に伝えるとき、どう書けばいいかいつも迷います。ルビをつければよいのか、短くても大切なことがどうやったら伝わるのか、と。



先日の講座で「やさしい日本語」について勉強しました。正解がひとつあるのではなく、それぞれが気をつけ、工夫すればよいと分かりました。また、グループで「やさしいにほんごのチラシ」を作った時間がとてもステキでした。できたチラシには、ひとりでは思いつかない工夫やアイデアが詰まっていました。たとえば、もち物の「軍手」には短い説明や絵を入れて、どこで買えるかまで書いたり、イベント内容を子どもにもわかる楽しいことばに変えたりしました。「これは分かりにくいかな？」と互いに考えることで、参加できる人の幅がどんどん広がっていくのを感じました。

やさしい日本語は、それ自体が「あなたに向けて書いています」というメッセージです。日本語を母語としない人も地域で安心して暮らせるように、みんなで工夫しながら、これからもやさしい日本語を当たり前に使っていきたいです。

山口恵子（BRDG/コミュニティカフェほっこり）



日本自立生活センター（JCIL）、希望の家児童館、ネットワークサロン共催企画（8月19日） 「卓球バレー交流」

毎月ネットワークセンターで練習をされているJCILと就労移行支援事業所INCO Pの方々12人と、希望の家児童館の32人の子どもたちが、3台の卓球台に分かれて交流試合をしました。京都卓球バレー協会から4人の方が審判として参加してくださり、正式なルールを教わることもできました。この交流に向けての経緯をJCILの野瀬さんにお書きいただきました。

皆さんこんにちは。真っ赤な電動車いすで子ども大好きなJCIL野瀬です。



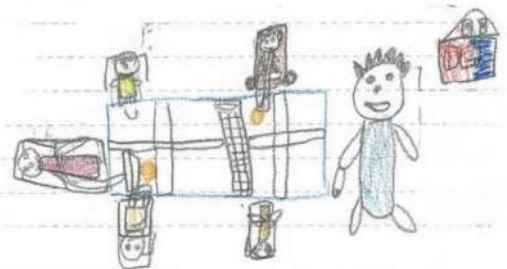
毎月、卓球バレーをするためにサロンをお借りしています。毎度、児童館から聞こえてくる子ども達の声に密かに癒されながら、子ども達と何か出来ないかなと思っていました。

JCILのメンバーから「夏休みの子ども達と卓球バレーをしては？」と提案がありました。それはいいアイデアだと思い、すぐにスタッフさんに相談し児童館の先生に繋げて頂き一緒に企画しました。子ども達のみならず、先生方とも関わる事があまりなかったので、事前のミーティングから良い時間になりました。

これまでに、子どもたちから心無いことばを言われることもありましたが、良くも悪くもなれているので聞き流していましたが、スタッフさんが丁寧に指導して下さいました。こういうイベントを共にすることで、子ども達やそういった見方にさせてしまっている社会の偏見がなくなれば良いなと切に願います。

野瀬時貞（日本自立生活センター）

わたしは、きょうはじめてタックユバレーをしました。はじめはボールがきたらこわくてうけとれなかったけど、どんどんやったらこわくもなく、チームでなかよくでき、どんどんじょうずになりました。またやりたいです。



東九条で〈つながる〉豊かさ～京都人権文化講座

ネットワークサロンの宇山世理子さんに6月11日、「京都人権文化講座」で話してもらいました。タイトルは「東九条でつながる」。サロン事業を京都市から受託している「希望の家」の歩みや、現在のサロンの取り組みを紹介してくれました。サロンが担う〈多様な人びとをつなぐ〉役割がよく解り、〈つながる〉ことの豊かさが伝わる内容でした。

ところで京都人権文化講座は、多岐にわたる人権課題の解決に尽力する人を毎度講師に招いて話を聴く学習の場です。40年前に始まり、現在は年間に計8回開講。聴講者は企業人、公務員、研究者、宗教者、社会運動家など、これも多岐にわたります。

私自身が東九条で〈つながる〉年月を重ねてきたおかげで、これまで東九条に縁のある多くの人たちが講師を引き受けてくれました。宇山さんにもずっとお願いしていたのですが…やっと「うん」と言ってくれました。

宇山さんはこんな話をしました。「子どものころは在日コリアンを知らず、障害者とは年に一度交流する程度。薬物依存は怖い。それが私の〈あたりまえ〉でした。でも東九条で育った私の娘の〈あたりまえ〉は違う。今の私の〈あたりまえ〉も昔とは違う」。サロン周辺には在日も障害者も、薬物依存からの回復をめざす京都ダルクの人たちもいる。それが〈あたりまえ〉の環境の中、「人生が豊かになった実感があります」と。



東九条に長年関わってきた私もその気持ち、解ります。

渡辺 毅（京都人権文化講座企画担当／東九条マダン前事務局長）

編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

□所在地：601-8006 京都市南区東九条東岩本町31

□tel：075-671-0108 □fax：075-691-7471

□開館時間：9時～17時 □E-mail：info@kyotonetworksalon.jp

□webサイト：http://www.kyotonetworksalon.jp

□JR京都駅八条口・JR京阪東福寺・市営地下鉄九条駅より徒歩15分

□京都市バス202・207・208系統 九条河原町より徒歩10分

16・84系統 河原町東寺道より 徒歩1分